

大人格は實に億兆修養の大師表たるべきを思ひ奉りて、聖藻一首を左に拜記す。

よりそはむひまはなくとも文机の

上には塵をすゑずもあらなむ

蓋し暇なくとも暇を見出で、勵めこの御訓誠か。在天の御神靈願くは照覽あらせ給へご畏み畏みて白す。

大正元年十一月十四日

雜誌部長教授

本田

弘

乃木將軍歌

敢奪我旗何賊是。一劍逼賊衝堅壘。我旗求之遂不得。臣躬有罪可以死。當時生還非所期。欲死不死且忍耻。爾來悠悠三十春。殊恩何以答天子。况復後年旅順城。敵彈爆爆百雷起。可憐此地萬骨枯。寤寐使臣生顛泚。何圖一旦山陵崩。愁雲黯慘鎖丹陛。臣哭而慟可如何。畢竟天子不問罪。靈輿夜出鳳凰宮。弔礮一轟天流涕。億兆吞聲夜沈沈。臣是朝服在私邸。再拜稽首臣希典。以刀割腹今殉矣。妻亦不願収此屍。七首三刺入肚裏。夫唱婦和碧血前。精神直欲赴伏水。自知殉死失軌遵。此心惟有不得已。嗚呼將軍躬自責。一一心事如可指。吾今招魂恍有聲。肅然聞之一長跪。

教授 野野口勝太郎